

守山城趾 守山区市場



築城時期・創建者ともに不詳。

天文4年(1535)12月、尾張攻略のため約1万の軍勢を率いてこの地に布陣した松平清康(徳川家康の祖父)が、陣内で臣下に殺害され、主を喪った松平勢は崩れて守山を落としていきました(「守山崩れ」)。享年25歳。
この事件をきっかけに松平氏による三河支配が崩壊し、松平家は苦難の道を歩むこととなります。

守山城はその後、織田方の城として、織田信光・信次(信長の叔父)、信時(信長の弟)が城主となり、桶狭間の戦いの後、廃城になったとされています。

宝勝寺

天正元年(1573)、浅井長政と織田信長との間に起きた小谷城の戦いで浅井氏が滅亡した後、お市の方と茶々・初・江の三姉妹が守山城に1年間滞在していたとされています。



小幡城趾 守山区西城二丁目



大永2年(1522)、岡田重篤の築城と言われています。

一時廃城となっていたとされますが、天正12年(1584)小牧・長久手の戦いの折に徳川家康が修復して入城し、三河と小牧山とのつなぎの城として重要な役割を果たしました。

その後、再び廃城となり、寛文年間(1661~1673)には既に松林・畠になっていましたと記されています。

生玉稻荷神社 守山区小幡中三丁目

秀吉が布陣した龍泉寺からは直線距離でわずか約2.6km。
現在でも、本丸跡付近から龍泉寺周辺一帯を望むことができます。



小幡城の守護神。
小牧・長久手の戦いの折に家康が立ち寄り、臣下から稻荷山の竹で作った旗竿を献上され、大いに喜んだと伝えられています。

「小幡古城図」(名古屋市蓬左文庫所蔵)には、本丸の周囲に岡田助右衛門(重善)・土肥平六・富田喜太郎・小瀬久六・友作の屋敷が描かれています。

龍泉寺 守山区竜泉寺一丁目



延暦年間(786~806)、伝教大師最澄の創建と伝えられ、熱田神宮の奥の院とも称される名刹。

小牧・長久手の戦いの折、羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)が布陣。

退却時に寺堂に火を放って消失させましたが、慶長3年(1598)、密藏院(春日井市)二十九世秀純が再興しました。

国指定重要文化財の仁王門と木造地蔵菩薩立像のほか、円空作の馬頭観音、千体仏五百数十体等を所蔵。

境内には昭和39年(1964)建設の宝物館「龍泉寺城」があり、寺宝が多数展示されています。

*宝物館は日・祝日のみ開館



龍泉寺より南西方面の眺望

かつて近隣の村から龍泉寺へ豊作祈願の「おまんと(馬の塔)」を奉納する神事が行われていました。吉根村(現在の吉根地区)の馬に飾る標具(ダシ)は、金銀各1組の千成瓢箪。

小牧・長久手の戦いの折、秀吉が吉根観音寺に立ち寄り、馬印の千成瓢箪を置いていったといふ言い伝えに由来するものです。



庄内川の渡し

勝川の渡し

現在の勝川橋のやや上流、庄内川を歩いて渡れる場所で、古くは「徒歩川(かち川)」と呼ばれていました。

小牧・長久手の戦いで家康が龍源寺(現大清寺、春日井市)で小休止した際、「勝川」の地名を聞いて縁起が良いと喜んだとされています。

家康が村人から供された牡丹餅を食べようとすると箸が折れ、「不吉な…となるも「天下は一本に成るの吉兆」と言わされて笑顔に

大日の渡し

禅源寺大日堂(春日井市)と志段味を結ぶ渡し。第一隊 池田恒興隊、第二隊 森長可隊が渡河。

野田の渡し

密藏院の南の野田と吉根を結ぶ渡し。第三隊 堀秀政隊が渡河。

松河戸の渡し

現在の松川橋のやや上流、松河戸(春日井)と川村を結ぶ渡し。第四隊 羽柴秀次隊が渡河。

岡田氏
重篤—重頼—
重善
重孝

重善
守山城主・織田信光と並んで「小豆坂七本槍」の一人。織田信秀・信長・信雄に仕えました。

小豆坂七本槍
天文11年(1542)、織田軍と松平・今川連合軍が対峙した小豆坂の戦いで活躍した織田方の勇士七人を顕彰した呼称

「小牧・長久手の戦い」ゆかりの史跡

小牧・長久手の戦いにより、長慶寺、長命寺、大永寺、法輪寺、石山寺など多くの寺社が焼失し、その後再興。

善同
津川義冬・浅井長時とともに織田信雄の三家老の一人。秀吉に通じたとの疑惑で信雄に殺害され、これが小牧・長久手の戦いのきっかけとなりました。

善同
名古屋城造営時の繩張奉行。
小牧・長久手の戦いで消失した大永寺を御城造営の余材を拝領して再建。

天野信景「尾州古城志」享保十年 河村秀根本

守山城

城墟東西三十二間、南北廿八間 一重堀、

自村西戌方、九十間

津田孫十郎

一書云清康公、天文四年構砦、十二月五日

横死于此云々、城墟自村坤 云々

小幡城

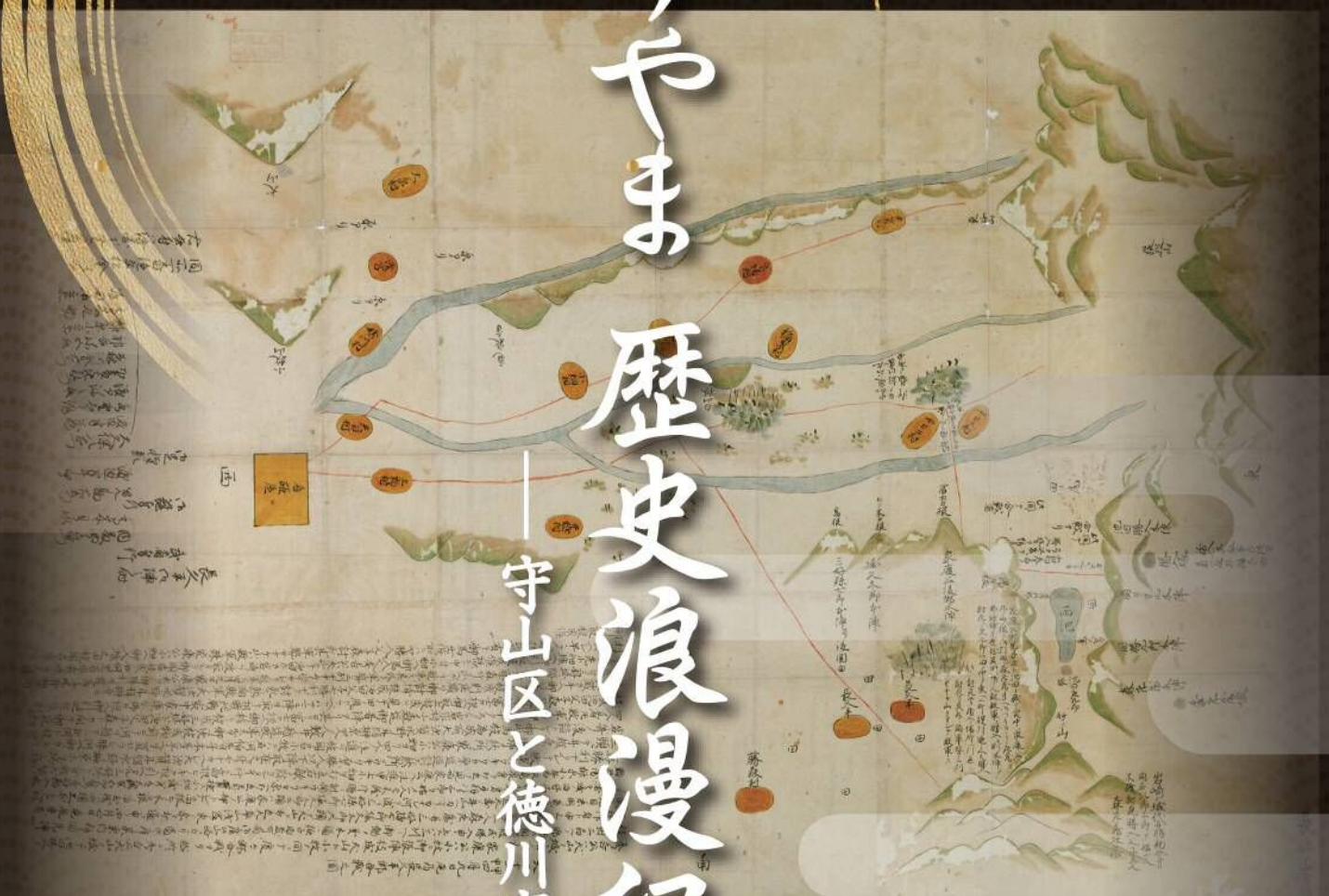
東西百十間、南北六十間 東西二重堀、

北切岸、大永年中築之云々

岡田与七郎 織田源次郎

岡田助右衛門、其子長門守、当村産

称岡田地在田名



「長久手合戦図」(名古屋市蓬左文庫所蔵)

もりやま歴史浪漫紀行 守山区と徳川家康

小幡森山の城墟たづねれば、
曲阜むかしを残して、麦浪風
空しくわたる

天文の変、天正の乱、
人疲れ、馬汗せし跡にや
織田豊臣の栄え衰え給ひしも
知らぬ世の昔語りとなりにき

天野信景「塩尻卷之十八」